



No. 443
2023年7月18日発行
国土交通労働組合 東京気象支部
(内線 2352)
<http://tokyo-kishou.sub.jp/wp2/>



◎新任職員研修で組合説明会を実施しました◎

今年も5月23日に、新任職員本庁研修（1回目）の終了後に、東京気象支部が組合説明会を行いました。

研修講義終了後、引率の方から組合説明会があるとアナウンスしていただき、初任職員全員にビラ（4/3付け「気流」）と加入申込書を配布しました。研修生65人中50人以上は残って話を聞いてくれました。支部執行委員長から「組合とは」と「国公共済会」の話をし、青年担当から青年・女性の活動の話をしました。

皆さんの帰りを待っていると、某地台からの男性職員から、全国の交流集会に興味があったらしく声を掛けてきました。参加費のことや組合費のことを聞いていました。

意外と参加者が多くびっくりし、用意したビラも足りなく急遽追加印刷した次第です。



2回目は6月20日で、本部と東京気象支部で組合説明会を行いました。2回目の研修生は総勢80名の参加で、全員話を最後まで聞いてくれました。昼休みに組合加入書とビラを配布し、研修後の説明に挑みました。説明の内容は、1回目と同じで、職場での問題解決に必要なこと、仕事や生活の中でプラスになる点が多いことなどを約15分ほど話しました。

各分会でも新規採用者がおりましたら、積極的な声掛けをお願いします。

◎女性組合員のランチミーティングを開催◎

5月22日昼休み、女性組合員のランチミーティングを開催し、4名が参加しました。

もうすぐ産休に入る職員や、幼い子どもを持つ職員も参加し、男性の育休取得や家事・育児の分担について情報交換しました。

○男性の育休取得

- ・最近、約1年間育休取得した男性職員を見かけた。
- ・ほとんどの男性の育休取得は1ヶ月前後が多い。
- ・生後6ヶ月頃から育休取得した男性職員がいた。離乳食が始まり、人手が必要になるとの話だった。
- ・（もうすぐ産休に入る職員）今回生まれる子について、



夫の育休取得は1ヶ月に決まった。妻としては半年ぐらい休んでもらいたいのが本音。
○生後8ヶ月頃に職場復帰する予定だが、昼間、子どもの成長を目の前で見られないのが寂しい

- ・子どもは何歳になってもかわいい。どこかのタイミングで区切りをつけるしかない。
- ・保育園では、調理の難しい食材を給食で食べさせてくれたり、オムツを外す練習をしてくれたり、お箸の持ち方を教えてくれたりして助かった。保育のプロに力を借りると思えば、悪いことばかりではない。
- ・職場復帰してからは、仕事中は育児の息抜き、子育ては仕事の息抜き、のように、上手く切り替えれば両方にとって没頭できる時間になる。



○育児の分担

- ・結局、母親のワンオペになっている家庭が多いように見受けられる。
- ・夫は子どもの夜泣きの声が聞こえないらしい。
- ・コロナでテレワークをするようになって、夫が育児の大変さを知り、分担してくれるようになった話も聞いた。
- ・育児は妻・家事は夫の家庭、時間制で2交代している家庭など、分担の仕方は家庭によっていろいろある。
- ・何をするにも「ママがいい！」になってしまふとワンオペ必至。子どもが小さいうちから均等に接していれば大丈夫だと思う。

○家事の分担

- ・ルームシェアのルームメイトのように、自分のことは全て自分でやる、という家庭。
- ・夫の家事スキルを育てておいて、作業項目や所要時間で半々になるように分担している、という家庭。
- ・夫に料理や洗濯などを教えたが、全然習得してくれず、結局妻がほぼ負担している、という家庭。
- ・夫が進んで洗濯してくれるが、洗濯は自分も好きなので、あまり“やってもらった感”が無い。
- ・夫はある程度の家事は分担してくれるが、洗濯機のゴミを取り除く、台所のタオルを替えるなど、細かいことはやってくれない。

ミーティングで出た意見は、国交労組本部の待遇改善委員会へ報告しました。育児休業取得は夫婦でしっかり話し合って、本当に必要という期間をお父さんもお母さんも取得できるよう申請してください。職場でも、「この人がいないと困るんだよ」なんていうことのないよう、フォローをしっかりお願いします。子育ては一生のうちほんのひと期間です。家族みんなが笑顔で成長できるよう見守るのも職場の大変な使命です。

職場で困った時、悩んだ時は、13階組合事務局まで！加入申込も歓迎！＼(^◇^)／
東京気象支部への連絡は tokyo-kishou-sibu@hotmail.com
電話：03-6403-1895 または（気象庁代表）03-6758-3900（内線2352）